

BEST AVAILABLE COPY

Ref. 3

① 日本国特許庁 (JP)

② 特許出版公開

③ 公開特許公報 (A) 平3-107079

④ Int. Cl.
E 05 B 17/10
F 21 L 11/00

発明記号 庁内整理番号
E 7521-2B
L 6849-3K

⑤ 公開 平成3年(1991)5月7日

審査請求 有 検索項の数 9 (全 6 頁)

⑥ 発明の名称 周明キー

⑦ 特 願 平1-283138

⑧ 出 願 平1(1989)11月1日

⑨ 1989年9月11日 ⑩ 韓国(KR) ⑪ 13764

⑪ 発明者 楊 春 景 大韓民国ソウル特別市江南区逸院洞620-3

⑫ 出願人 楊 春 景 大韓民国ソウル特別市江南区逸院洞620-3

⑬ 代理人 弁理士 韓江 式慶 外2名

明細書

1. 発明の名称

周明キー

2. 発明特徴の記述

(1) 把手部本体に本体外方へ突出する突起を設けた端突。周明用のキーにおいて、把手部本体の内側に端突突出方向へ周明装置風制する周明装置を設置したことを特徴とする周明キー。

(2) 周明装置が把手部本体の把手部導入部、把手部導入部に突起、導入部を有する電池、把手部、周明ランプからなり、この電池、把手部及び周明ランプを把手部のスイッチ動作でランプが点灯するようにはばで電池接続したこととを特徴とする請求項1に記載の周明キー。

(3) 周明ランプが発光ダイオードであることを特徴とする請求項2に記載の周明キー。

(4) 周明ランプがレーザーダイオードであることを特徴とする請求項2に記載の周明キー。

(5) 把手部本体内に導入される電池を充電でき

るようとしたことを特徴とする請求項2に記載の周明キー。

(6) 把手部本体が一端外部に凹部した側面端部の空洞を有し、この本体側面端部の空洞内に電池を電池として出入開閉される自動レバーを設け、この自動レバーの内側に位置する切欠部と周辺空洞の内壁面等で形成される空室を電池導入部として、この電池導入部に収納される電池を前記レバーの手動的な開閉操作によって交換できるようにしたことを特徴とする請求項2に記載の周明キー。

(7) 把手部本体が把手部とこの把手部に相対的に嵌合保持される蓋体とからなり、この蓋体と把手部との間に形成される空隙部に、把手に附して電池と周明ランプ及びスイッチを把手に固定したユニット型の周明装置を把手側面に組込む構造にしたことを特徴とする請求項1に記載の周明キー。

(8) 把手部本体に組込まれる周明装置の周明部を蓄光物体にしたことを特徴とする請求項1に記載の周明キー。

(9) 蓄光物体が把手部本体に内蔵され、この把

BEST AVAILABLE COPY

RS 000563

手部本体に蓄光部へ光導光を導入させる蓄光用の透光窓と、蓄光部から発せられる光を蓄光して風体側の放光孔から四方へ輻射させる放光レンズと、前記放光孔を手動操作で閉塞する閉塞カバーとを設けたことを特徴とする請求項1に記載の風明キー。

3. 風明の詳細な説明

(請求上の利用分野)

この発明は把手部本体に風明装置を組込んだ施設・解説キーとして使用される風明キーに関するものである。

(従来の技術)

従来、把手部本体に本体外方へ突出する部体を設けた施設・解説用のキーは一般に知られているが、把手部本体の内側に風体部分を組むず風明装置を組込んだ風明キーは存在しなかった。

(風明が解決し上うとする課題)

施設機器の一般的に多用されているキーは、それ自身に風明装置または発光装置が無いので、暗い場所で使用する時に窓穴の位置が分らず、周

を設けた施設・解説用のキーにおいて、把手部本体の内側に風体突出方向へ風明光を輻射する風明装置を組んだものである。

前記風明装置は窓穴への風体導入部分を組むことができるものであれば、どのような形状のものであっても良いが、実用的にはまじめな施設の様としては、把手部本体内の電池挿入部、如スイッチ用插入部、ランプ挿入部に電池、如スイッチ、風明ランプを突き挿入固定し、この電池、如スイッチ及び風明ランプを如スイッチのスイッチ動作でランプが点灯するよう電池で充電した風明装置を適用すると良い。

この場合の電池ランプは互換性であっても、発光ダイオードやレーザーダイオード等であっても良く、また把手部本体内に挿入される電池は実機面にすることが望ましい。この電池交換構造としては、把手部本体の一側内壁に側面開口の空洞を設けし、この本体側内壁の空洞内に電池を収容として出入り口される回路レバーを設け、この回路レバーの内側に位置する切欠部と把手部本体の内

特開平3-107079 (2)

方にキーを容易に差込むことができる、という不満点があり。特に自動車用のドア開閉キーの場合は、実際な場所で自動使用することが多くるので、ドアを開けるまでに長い時間を要するか、その間に運転者が他人より力を受け、自動車を盗難される等の事故発生原因になりかねない問題があつた。

この発明は施設機器の問題を解消するためになされたもので、その目的は各部の出入口扉や自動車ドア等の施設・解説を行なうキーに、使用者の簡単な操作により光を発する風明装置を付設して、光のない施設機器等の場合に、別の風明器具を使用しなくとも、キー本体に組みた風明装置を利用し、目的の対象物を手早く見分し或いは辨認することができる、従来車にとつて施設に便利で実用性の高い風明キーを提供しようとするものである。

(構造を解説するための手順)

前記の目的を達成するためには、この発明の風明キーは、把手部本体に本体外方へ突出する風明

装置部とで組まれる空室を電池が入部として、この電池挿入部に収納される電池を前記レバーの手動的な回路操作によって交換できるようとする。

また、前記風明装置は把手部本体から取り出しができないものであっても良いが、キー本体の外側に風明装置を組み易くなるようにするためには、把手部本体を把手部と、この把手部に可搬可能な組合部とされる窓体とから構成し、この窓体と把手部との間に形成される空腔部に、基板に対して電池と風明ランプ及びスイッチを回路固定したユニット型の風明装置を可搬可能な構造にするが良い。

更に、前記風明装置は電池可搬、ランプ及びスイッチを使用する構成方式に代えて、風明装置を蓄光部とした蓄光装置とするも可能である。

この場合の蓄光部は、实质的にはホトキス小レシスンス (PHOTO RESISTANCE) に似たもので、蓄長が長い可蓄光装置及び蓄光装置の光路を短時間で蓄光し、長い間蓄光させるものを使用する。この蓄光部は把手部本体

に内蔵するが、この蓄光部件の蓄光及び蓄光用鏡を可動とするためには、把手部本体に蓄光部件へ外導光を導入させる蓄光用の光路部と、蓄光部件から発せられる光を反射して蓄光部の蓄光部から前方へ反射させる蓄光レンズと、前記蓄光部を手動操作で開閉する開閉カバーとを組合せた構成構造とする。

〔作用〕

前記構成の実験キーによると、把手部本体は、組込んだ照明装置を使用して物体部分を照明することができる。光がない夜間等において別の照明器具を使用しなくとも、組穴へのキー挿入を容易に、しかも手早く行なうことができる。

〔実施例〕

以下、本発明の一実施例を第1図乃至第3図に範囲内に示す。この実施例の実験キーは、カルガーブルを有する把手部本体1に、本体外方へ突出する操作2を組合した通常の把手操作キーにおいて、把手部本体1の内側に電池導入部3と把手スイッチ導入部4とランプ導入部5と

スイッチ片6が組合され、より簡めてランプ5が操作されるよう構成している。

前記ランプ5は豆電球、発光ダイオード (Light emitting diode)、レーザーダイオード (Laser diode) 等を使用する。

前記把手本体1内に導入される電池3は、使用者が容易に交換することができるものであることが望ましい。この組合の実施例を第4図乃至第6図により説明するが、電池3の交換構造以外の構成については既に詳説したので、ここでは電池3を交換するための構造部分を中心に説明する。

この第4図乃至第6図に示す電池交換構造は、把手部本体1の一端部に側面がコ形状をなす二面鏡鏡口の空間10を形成し、この本体鏡面部の空間10内に本体鏡面部の電池3を支承として出入開閉される回転レバー8を設け、この回転レバー8の内側に位置する円盤状の切欠部8aと前記空間10の内壁面とで囲まれる空間を電池導入部として、この電池導入部に収納される矩形の小皿電池3を前記回転レバー8の手動的な回転操作によって交換で

特開平3-107079(3)

を第2回の組く構成し、この電池導入部3に組合の小皿電池3を、把手スイッチ導入部4にプレス式の把手スイッチ4を、ランプ導入部5に直角ランプ5を丸く導入固定し、この把手3と把手スイッチ4及び直角ランプ5を把手スイッチ4のスイッチ動作でランプ5が点灯するよう導線6で電気接続して、前記ランプ5の直角光を把手2の開出方向に第2回の組く照射する直角性を形成している。

前記把手スイッチ4は底面中央部に固定された導電性のスイッチ片6を有し、その下部には把手部本体1側で導線6で連結された一对の接点7を、6が電子の回路を導いて対向する状態に配置されて、この接点7は、把手スイッチ片6の接線で電気的に連結されることにより、前記ランプ5を点灯させることができるようにになっている。

また、把手スイッチ導入部4の内側面と把手スイッチ4との間に、スプリング7aを第3回の如く組合して、把手スイッチ4の開閉操作を解除した時に把手スイッチ4がスプリング7aの彈力で上昇し、

するよう構成している。

なお、前記レバー8の内側部外周面と前記空間10の内壁面鏡部は、電池3を中心とする導線6に接するよう内側部の鏡面鏡部となっており、前記レバー8も電池3を中心にして第5回矢印方向に引出すように手動操作で回転させることによって、電池3の取扱いを容易に行なえるようになっている。

このように電池3が本体外側に引出せれば、電池3を新しいものと取替えた後、前記レバー8を空間10方に開込みように回転させることにより、空取扱の電池3を把手部本体1内の所定位置に正しくセット導入することができる。

この電池交換構造の場合、電池3はランプ点灯回路と電気的に接続することができるものでなければならぬので、把手部本体1の空間10内に電池3の上下電極間に接続する上下一对の導電性片10a、10bを第6回及び第7回に示すように設けている。この上下一对の導電性片10a、10bはリング状の導電体10'に第8回の如く露出形成されたものであって、リング状の導電体10'に導線

6.を被装し、同記導電体15'を把手部本体1内に
頭も脚も如くインサート固定することにより、同
記導電片16、18'が不導電部11内に第7回の如
く突出する状態で被装されている。

第9回乃至第41回は東明経置又をユニット型に構成して、このユニット型の東明経置又を一連の者が把亭本末1から開早に續続できるようにした実態例を示す。この実態例の開合花は、把亭

部本体1を把手部21」と、この把手部21に電線22を可搬に組合せられる固体11とから成りし、この固体11と把手部21との間に形成される空隙部13に、把手21に對して電線13を展開ランプ15及びスイッチ16を配備したユニット型の取扱装置を可搬に組合せる構造にしている。

開閉電池13と照明白ランプ15及びスイッチ14は互に図1に第9回の如く取扱され、スイッチ14の操作でランプ15が点灯するよう電気接続されている。開閉スイッチ14はスイッチ片15aと開閉する部屋板16aを有したブッシュ式のスライドスイッチであって、部屋板16aがスイッチ片15a

前光孔 24 から光せられる光を前方へ指向して鏡体 2 頭の鏡光孔 24 から前方へ屈光させると鏡光レンズ 31 と前記鏡光孔 24 を手動操作で遮断する鏡頭カバー 22 とを設けている。なお、前記鏡光孔 24 は把手部本体 1 の手取鏡体 20 と対向する両側位置に設けられている。また、前記鏡頭カバー 22 は通用取り止め用の突起 21a を有し、把手部本体 1 の円形外周部に沿って取付操作するよう構造されている。

開拓者先駆者たる。実験的にはホトキヌクレスンス (PHOTO PROSPHERESCEENCE : けい光体) に先駆されたるもので、被虫が匂い可視光線等及び紫外線の光線を短時間で蓄光し、長い間発光をせることができるものを使用している。

この実験用の場合には、回転カバー22を指して開けさせると、電光物体20に留光されている光（電光物体20から光せられる光）が発光レンズ31で発光されて、鏡体2側の投光孔24から前方へ照射されるので、前記実験用で述べたような電池3(11)、スイッチ4(14)、照明ランプ5(15)を起動しなくても、本発明の初期の目的を達成す

特圖平3-107079(4)

より飛れるようにスプリングにて走行路の如く上方に付加されている。

なお、前記部体11には把手部11'、側の持状装置部11cに収容される導入突角11dと、この導入突角11dの位置面に実装した差接止用の弹性突起11eと、前記スイッチ11を本体外側に露出させるための凹状切欠部11fとが把手部の如く抜けられていて、この実装例の場合には、ユニット側の風羽装置部を部体11を取外すことによって把手部に収納することなどが可能なので、使用者が風羽装置部を不使用とする場合には、風羽装置部を把手部本体11から取外して、風羽装置部のない通常の施設・建設キーとして使用することができ、また前記ランプ14及び風羽13の取替えも容易に行なうことのできる。

第11図及び第12図は既喰放散火の風羽每を露光
相成りとした時の高熱門を示す。

この実施例の場合には、把手部本体1の内側に
蓄光物体18を内蔵し、この蓄光物体18の蓄光及び
発光照明を可能とするため、把手部本体1に蓄光
物体18へ外部光を導入させる蓄光部の透光部23と、

ることあります。

《先明中功集》

この免税の開港キーは、把手中本体内に開港の上うな開港装置を組込んだものであるから、免めのない税関使用等の場合は、別の開港装置を使用しなくても、キー自身に設けた開港装置を利用し、目的の対象物を手早く開港し或いは封緘することができる効果があり、使用者にとって非常に便利で実用価値の高い開港キーを提供することができます。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本発明の一次旋削に係わる旋削キーの外観斜面図、第 2 図は同旋削キーの横断面図、第 3 図は前記旋削キーのスイッチ接込み部分を示した旋削柱大断面図、第 4 図は電地変換用の回路レバーを具備する旋削キーの外観斜面図、第 5 図は同旋削キーの横断面図、第 6 図は第 4 図の A-A' 斜断面図、第 7 図は第 5 図の B-B' 斜断面図、第 8 図は各電気接続部を突出形成したリシング状の導体部を示す外観斜面図、第 9 図はユニット

BEST AVAILABLE COPY

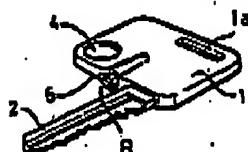
RS 000566

ト型の風洞装置を組込む風洞キーを分解状態で示した斜視図、第10図は第9図に示した風洞装置の作動説明図、第11図は実風洞装置のスイッチ部分を示した接線断面図、第12図は風洞装置の風洞部を電光管体とした風洞キーを示す外観斜視図、第13図は風洞キーの裏接線断面図である。

1—把手等本体、1'—把手部、16—空油器、
2—机体、3—尾翼装置、3'—電池導入部、
3'—電池、4—前スイッチ部導入部、4'—
前スイッチ、5—ランプ導入部、5'—尾翼
ランプ、6—母材、8—回転レバー、10—切欠部、
9—桿部、11—空洞、12—机体、13—蓋板、
13'—電池、14—スイッチ、15—ランプ、16—母材、
18—蓄光物体、21—蓄光レンズ、22—開閉カバー、
23—吸光部、24—吸光孔。

曲園人代題人 劍士 朱江武圖

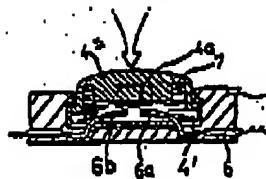
第1回



第2圖

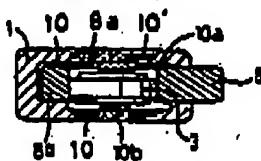


第3回

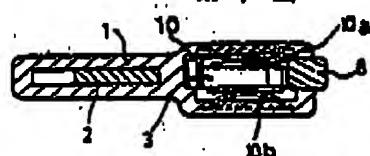


14節平3-107079 (5)

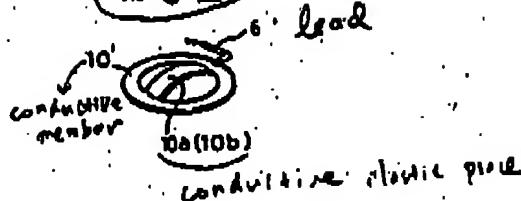
第 6 圖



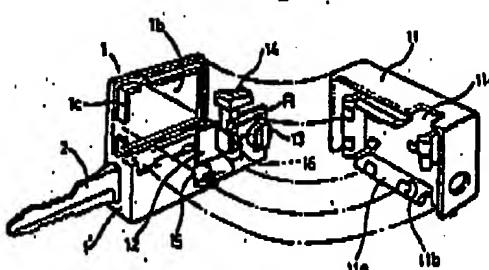
第7回



第 8 四



兩 9 頁



- 12. substrate
- 13. battery
- 14. switch
- 15. lamp
- 16. lead

07070 (8) 図 4-5

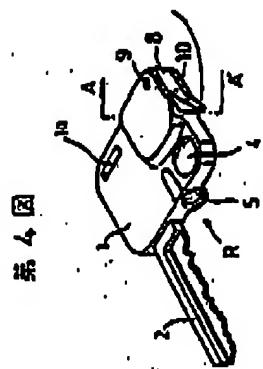


図 5

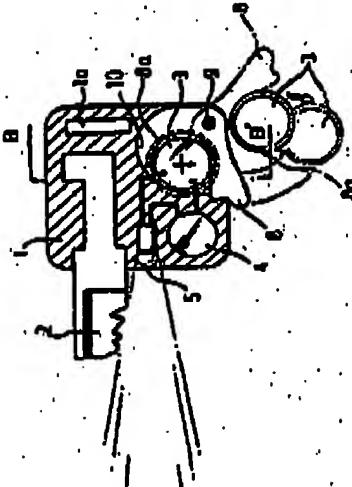


図 10

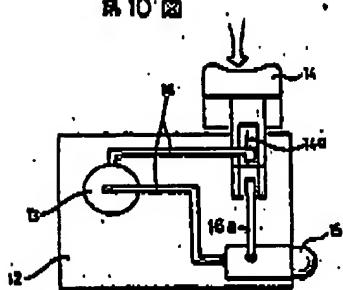


図 12



図 11

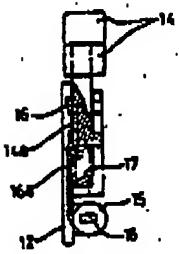


図 13

